

図書館だより SAKUらいぶ

作新学院大学

作新学院大学女子短期大学部 図書館

105

令和5年5月号

学習・研究活動と「しらせ」—図書館と生成AIの共通点—

図書館長 作新学院大学女子短期大学部 教授 坪井 真

ご存知のとおり、私たちの社会生活や経済活動と関連する社会資源には、物的資源、人的資源、財務的資源、情動的資源（以下「しらせ」といいます）があります。図書館の場合、建物本体や各種設備、図書（書籍類）は全て物的資源となり、スタッフは人的資源です。また、図書の購入費や各種設備の維持・管理費などは財務的資源です。さらに図書の文字情報やパソコンを通じて活用する電子図書のデータなどは「しらせ」です。とりわけ、図書（紙媒体の書籍類）や電子図書から得られる「しらせ」は、学生の皆さんの学習・研究活動に必要な不可欠な社会資源といえます。

このように図書館は、本学で学ぶ皆さんの学習・研究活動に必要な「しらせ」を提供する役割を担っています。その目的は、自らの思考力・創造力に基づき、学生の皆さんが取り組む学習・研究活動（学習課題や研究関心に対する考察など）を支援することです。

今年の4月、生成AI（ChatGPTなど）の活用に関する声明を発表した『人工知能学会』は「学ぶことへの好奇心や意欲がある場合には積極的に利用すべきですが、自分で考えることなしに答えのみを教えてもらう用途には利用すべきではない」と述べています。つまり、生成AI（ChatGPTなど）は、「しらせ」の提供をとおした学習・研究活動の社会資源であり、思考力・創造力に基づく「学びの主体」は、学生の皆さん一人ひとりであると『人工知能学会』は示唆しているのです。

そして『人工知能学会』が示す生成AI（ChatGPTなど）の利用方法は、図書館と共通しています。ぜひ、思考力・創造力に基づく「学びの主体」として、図書館にある豊富な「しらせ」を利用し、ご自身で「答え」をみつけてください。

出典：一般社団法人『人工知能学会』ホームページ (<https://www.ai-gakkai.or.jp/>)

絵本 この一冊

図書館の珠玉の一冊
を紹介します

100万回生きたねこ 佐野洋子 作/絵 請求記号 E/Sa

物語の主人公は100万回死んで100万回生きた雄の“ねこ”です。“ねこ”は王様に飼われたり、泥棒に飼われたり、老婆や少女に飼われたりしました。どの主人も“ねこ”が死んだ時に悲しくて泣きましたが、“ねこ”はちっとも悲しくありませんでした。“ねこ”はそのことをいつも得意げに話しました。

ある時、誰のものでもない野良猫の時に、雌の“白いねこ”と出逢います。“ねこ”は100万回死んで100万回生きたことを“白いねこ”に自慢しませんでした……

ひねくれていた“ねこ”の心を動かしたものの、大切なものを失うことの悲しさ、生きることと死ぬことの意味など、読む人の年齢や立場によってとらえ方の変わる物語です。




幼いころに読んだという人も、大人になった今読み返してみると、改めて感じることもあるかもしれません。

テレビドラマ「100万回言えばよかった」でもこの絵本が印象的に使われていました。

図書館で、どうぞ手に取ってみてください。

図書館開館カレンダー 5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

-  午前 9:00～午後 6:00
-  午前 9:00～午後 1:30
-  休館

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 図書館

TEL : 028-670-3652 FAX : 028-670-3619

E-mail : tosyo@sakushin-u.ac.jp

URL : <https://www.sakushin-u.ac.jp/library/>